

令和3年第3回定例会

美郷町議会会議録(第3号)

令和3年9月7日

美郷町議会

# 令和3年第3回美郷町議会定例会会議録（第3日）

令和3年9月7日（火曜日）

◎開会日時 令和3年9月7日 午前10時00分 開会  
◎散会日時 令和3年9月7日 午後13時15分 散会

## ◎出席議員（10名）

1番	山本 文男君	2番	中嶋奈良雄君
3番	川村 義幸君	4番	川村 嘉彦
5番	黒田 仁志君	7番	甲斐 秀徳君
8番	森田 久寛君	9番	園田 義彦君
10番	山田恭一郎君	11番	那須 富重君

◎欠席議員 なし

◎欠 員 6番 富井 裕瑞君

◎会議録署名議員 2番 中嶋奈良雄君 3番 川村 義幸君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

## ◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三桝 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

# 令和3年第3回美郷町議会定例会 議事日程（第3）

令和3年9月7日  
午前10時開議

## 日程第1 一般質問

3番 川村 義幸 議員

1. 栗餡製造工場整備の見直しについて

1番 山本 文男 議員

1. しいたけ原木供給事業の再開について
2. 移住者の住居について

10番 山田恭一郎 議員

1. 事業の承継と居住形態の将来予測について

4番 川村 嘉彦 議員

1. 生活道路の除草、管理について
2. 国道などの白線の対応について

# 会 議 録

令和3年9月7日  
午前10時開議

## 【議長 那須 富重】

改めまして、おはようございます。

本日は、昨日に続きましての一般質問であります。

傍聴の方もお見えでございます。大変ありがたいことでありまして、お礼を申し上げるところであります。

本日は、4名の議員が質問を予定しておりますけれども、活発な議論を期待したいと考えております。よろしくお願いいたします。

## 【議長 那須 富重】

ただいまの出席議員は10名であります。

## 【議長 那須 富重】

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

上着を脱ぎたい方は、脱ぐことを許します。

広報用の写真撮影の申し出がありましたので、これを許可しました。

## 【議長 那須 富重】

日程第1、一般質問。

今回、一般質問の通告のありました議員は7名であります。

昨日、3名の質問を終えておりますので、本日は、残りの4名の一般質問を行います。

通告順に質問を許します。

3番、川村 義幸議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

## 【3番 川村 義幸】

議長。

## 【議長 那須 富重】

3番、川村 義幸議員。

## 【3番 川村 義幸】

久しぶりの一般質問になります。よろしくお願いいたします。

昨日、甲斐議員からも述べられたように、土曜日にはUMKのテレビ放送で美郷町の栗を取り上げてもらいました。

その中で、2人の栗農家の方が「今後も栗を守っていきたい」とコメントしておりました。特に、1人の女性の方は、ひょっとしたら耕作放棄されそうな栗園の後継者として栗生産農家としての取組を話しておりました。うれしい限りであります。また、この女性の娘さんが始めたお菓子屋さんも紹介され、美郷町の栗はもとより

美郷町の大変良いPRになった放送でした。

また、日曜日にはこの放送を見た県内各所から多くのお客さんが見え、美郷栗のお菓子を買うために長蛇の列でした。これこそ美郷栗のパワーかなあと感じたところでありました。

それでは、早速、本題に入らせてもらいます。

単刀直入にお伺いします。先の臨時議会で否決になりました栗餡製造工場の整備をもう一度、見直して取り組む考えはないかをお聞きしたいです。

栗餡製造の工場は町長の言う栗での一点突破を目指すには大事な施設の1つと考えられるが、今の施設は20年を経過し老朽化し、また、衛生面においても思わしくなくなってきているのではないかと思います。

特に、今年度から始まったハサップ認証に適した工場ではなくなってきているのではないかと思います。顧客にとって安心安全な商品を届けなくてはならない時代です。せっきく産地型商社を通してのふるさと納税の返礼品として使用のお菓子の原材料としての利用も考えられます。そのためにも衛生面の維持管理のしっかりできる新しい設備の工場がどうしても必要な施設ではないかと思われるところです。

そこで、もう一度、この計画の中身を見直し、栗餡製造工場の整備を行うことはできないか、町長の考えをお聞きしたいと思います。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁を許します。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

おはようございます。昨日が3名の方の一般質問、本日が4名ということで質問を受けております。よろしくお願いたします

今、議員がおっしゃいましたように、UMKのU-d o k iにおいて、美郷町の栗を非常にPRしていただいたと。結構、長い時間でありましたので、非常に美郷栗といいますかそういうようなPRになったのではなかろうかというふうに思っております。

議員の質問ですけど、第4回臨時議会において否決された栗餡のことでありますが、今後どうするかということでお尋ねですので答弁したいと思います。

このことは議員、ずっと話しておりますので、そんなに詳細に言う必要はなかろうと思っておりますが、今後は栗の生産振興を推進していくということには変わりはないというスタンスで考えております。

しかしながら、議員が言いますように、栗餡製造施設は整備から20年以上、たっておりますので、いろいろな意味で難しいところが出てきているのかなあというふうに思うところがございます。

その中で一番大切なのはハサップといいますか、衛生管理面で非常に苦労しているのではなかろうかというふうに思っております。栗を一点突破ということで六次

産業化を図ろうということでありましたが、今はそういう状況の中において、どうするかということは私の考えというか、選挙もありますので私というか町の考え方というか、そこ辺が難しいかなあということでは思っております。

ただ、この栗処さいごうの現体制と事業承継といいますか、それが速やかにしっかりできるかという部分も非常に心配をしております。ですので、今、現役員のモチベーションといいますかそれが切れないかという部分を非常に心配して、そのまま栗処さいごうがなくなっていくということが起こるのではなかろうかという懸念もあります。

ですので、自分の考えですけど、そこは避けたいというふうに思っております。六次産業化を推進するためにはどうしても餡の加工施設が必要不可欠でありますので、そういうことをしっかりと見ながら、状況を考えながらやっていくべきではなかろうかと、私はそう思うところであります。

ですので、やはり時期が来れば、生産体制を整えば、もう一回、議員さんたちに諮って、このことは再度、出してもいい問題ではなかろうかというふうに思うところであります。

以上です。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁が終わりました。

**【3番 川村 義幸】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

3番、川村 義幸議員。

**【3番 川村 義幸】**

今、町長が言われましたように、栗に向かった姿勢は変わってないということでもあります。

ただ、今、町長が心配された件、栗餡の後継者がどうなるかという件は私も懸念しておりました。その辺はこれから徐々に計画しながら、多分、今の栗の役員の方たちも70代以上、もう後期高齢に入るそこらの人たちもいるかと思われまして、そうした後に後継者がいなくなるのではないかというのは、本当に心配しておりました。

でも、それはそれなりにこれから町なり政策室なり、それからこれからできる産地型商社なりが協働でいろいろと策を練りながら、栗餡の工場をどのように運営していくかというのは、これからの課題だと思いますので、その辺をやっていけば何とかなるんじゃないかと思えます。鉄は冷めないうちに叩かないと、このまま冷ましてしまったら、取り返しのつかないことになると思います。だからその辺も含めながら、ひとつやっていただきたいと思います。

今、栗生産農家の収入は栗農家、特に大きい方は農業での栗収入が80%を占めておるということです。そして、栗とシイタケでやっている方でも60%、牛と一緒にやっている方でも20%から25%が栗での収入。本当に収入になってると思うんですね。

特に、この80%からの収入を得ている農家の方達にとって、この栗餡工場がな

くなって栗の値段が下がってしまったときには、本当に痛手が大きいと思います。その辺のことを考えながらやっていただいたらなと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう価格の設定とかそういう形でずっとやってきた栗処さいごうでありますので、本当に貢献度は高いというふうに私は思っております。

ですので、議員おっしゃいますように、今後、ずっとスムーズな事業継承、そういう部分を一緒にやっていきながら末長い、息の長い企業として栗農家さんがつくった企業として存続していくように、町としても協力をしていく、補助をしていくというかそういう体制を持ちたいと、そういうふうに今も前も考え方は変わりません。

本当に産業をつくっていくという部分に関して非常に難しいところはあるんですけど、ある程度、できてるといふ部分もありますので、議員さんがおっしゃいましたように生産体制といいますか、その栗生産農家さんをしっかりと支えながら、栗処さいごうも支えていくというような形で行きたい、そう思っておるところであります。

以上です。

【3番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

3番、川村 義幸議員。

【3番 川村 義幸】

ありがとうございます。ぜひとも前向きにそうやって考えていただけないと、栗農家の方々はこれからの楽しみというか生きがいというか、そういうものがだんだんと薄れていくような気がしております。

町長は、今後の方針の中で、先のパンフレットで「農林水産物などの生産組織の強化と支援」を述べられておりますが、その観点から、栗生産農家への生産支援と栗生産技術を行ってほしいと思います。

また、今、心配されております栗工場の後継者もそうなんですが、栗農家の後継者につきましても、一番大事なことはこちらだと思うんです。

例えば、職員の中から1人でもいいです、栗に携わる職員を1人、肥培管理全ての勉強をさせて、栗農家の先頭に立って栗農家を指導していただけるような職員を育てていけたらいいかなと思います。その辺の考えはいかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

以前の議会の中で今後の取組ということでいろいろな形を出ささせていただきました。それに沿って、生産体制はつくっていききたいと。

栗ばっかしではないという話になりますが、今回の予算にも補正にもいろいろな形で生産体制の構築のために予算を計上させていただいております。派生してほかの作物もという形になりますが、役場職員一丸となってそういう体制をつくっていききたいというふうに思っております。

農協さん、そして普及センター等々と話しながら、米の担当者も欲しい、栗の担当者も欲しい、いろいろな担当者も欲しいという話ではありますが、なかなか人数的にというか職員の数で考えていったときに難しい部分もありますが、ある程度、兼務できる職員を育てていききたいと思っております。

そのためには、やはり専門学校といいますか農業大学校とかそういうところを出た方を職員にしていくということが近道ではなかろうかとかそういうことを思っております。

以前、町政懇談会の中でやはり米の担当者も欲しいと、いもちがいつ出るかとかいろいろな病気のことで分からない、作ることは作るんですが、後の管理が難しいという話もいっぱい出ておりますので、もう少し基本からやり直す必要が出てくるかなあというふうには思います。

昨日も話したように、やはり基本が1次産業という形で、1次がなくなると2次、3次もなくなるという可能性が出てきますので、もう少し、てこ入れをして農林業の推進、美郷町の基盤の確立という部分で頑張りたいと、そういうふうに思うところであります。

以上です。

【3番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

3番、川村 義幸議員。

【3番 川村 義幸】

ありがとうございます。本当に6次産業を目指すには、1次産業、2次産業順番にやっていくのが一番大事なことかと思われま。

特に、この栗に関しては西郷村時代から昔の等米袋に入れて出荷している頃からの産物なんですね。それをここで絶やすわけにはいかないと私たちは思うんです。そのためには、やはりここでもう一度、てこ入れをきちっとやって、この栗を美郷町の栗として、当時は西郷の栗でしたけども、今度は美郷町の栗として残していかなくてはいけないんじゃないかと思っております。

そして、町長は、地域資源を生かした六次産業化の推進と。これ、違うか。産地型商社による外貨獲得を目指すとも述べられておりますので、やはり農家からまず



育て、やはり農家からまず育て、そして立派な栗餡工場を造っていただけたら、もうこれは最高かと思っております。

また、今度もしやるにしても資金の問題もかなりある、自己財源でやるのも本当に厳しいことはもう重々、分かっております。今後もしやるとしたら、こういうお金を繰り出す方法というのが何か目安がありましたら、お願いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

繰り出す方法、その生産者に対して繰り出すのか、そういう栗処さいごうに対しての繰出し方か、ちょっと分かりませんでしたので。

生産者に対しては、いろいろな形の制度設計をつくっていけばいいかなというふうに思っております。ある程度の高齢化という部分の中で、栗とかハナシバ、シキミですね、これはある程度、高齢者になってもできるかなあということ考えてます。施設が要らないというか道具がそんなに要らないのではないかという気がしてきます。軽トラと防除機があれば、それと剪定なんですけど。その剪定やは、前も言いましたようにいろいろな形の中で支援班をつくってやっていきたいということでもあります。

昨日の産業振興基金含めて「基金があるではないか」という話でありますので、そのために何のために積み増してきたのかという話になれば、やはりそういうことのために基金は積んできたということ考えれば、そういう部分の基金を取り崩して産業振興といいますいろいろな形の中で、人を育て、物を作りという形にしていきたい、そう思っております。

【3番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

3番、川村 義幸議員。

【3番 川村 義幸】

確かに産業資金、私もこれを利用しての事業が一番いいのかなあと。

先ほども、一度、これを利用しての計画でしたけど駄目だったということで残念だったんですけども。

また、私が繰り出しと言っているのは前の国庫補助1億8,000万円、これ駄目になったんですけども、今後こういう補助をもう一度、申請したらどうでしょう、もらえるんでしょうか、その辺をちょっとお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

担当と農政局に行きたかったんですけど、農政局の局長がなかなか忙しいということで局には行かなかったということなんですが、県とかその振興局のほうと、局長、県のほうの部長ですけど、いろいろと話したら、「大変でしたね」という話の中で、今後そういうことを考えていくべきではないかという話をありがたく思ってるんですけど、されました。

そのとき、今回こういう形で取下げになった結果は結果としてあるんですが、次もしそういうことになった場合には、「美郷町に不利にならないようにはする」ということでありますので、白紙状態に戻して、また出てきたときには一から考えましようということでの考え方かなあとということで私は受け取りましたので、そんなに、もうあそこがこんげして出てきたから、もうこれは駄目じゃわというような感覚で県は受けてはいないということはあるがたかったかなということでもあります。

ずっと部長にも局長にもいろいろな話はしてきたつもりではありますが、そういうことが美郷町に不利にならないようにという言葉に出てきたのかなあというふうには理解をしておるところであります。

以上です。

【3番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

3番、川村 義幸議員。

【3番 川村 義幸】

ありがとうございます。本当にもしこれが「もう美郷町には出せませんよ」という答えだと本当に残念なことだと思えますけども、今のような返事を頂けると本当にありがたいなと思えます。こういう返事を頂けた上でも、やはり考え直してしっかりとした栗農家を育て、栗餡製造工場を育てていきたいなと思っております。

また、栗農家を育てるためには、町長は前回からも言っておりますように、「苗木等の補助を必ず行う」というようなことを言っておりました。これはぜひとも続けていただきたいと思えますし、また考えは変わっていないかと思っております。

またそのほかに、これから継承者のいなくなる栗園、もうかなり高齢化した樹木もあると思えますけども、そういう樹木を手入れしながらやっていただける担い手としてIターン、Uターンこういう方たちにパンフレットなり、今でいうSNSですかね、そういう方向で呼びかけながら募集する方法とかは考えられないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今の予算の中でアンケートを取ったり園の位置とかそういうものを調べていくということで、結局、栗園バンクとかそういうものをつくっていった情報提供して、「ここを承継していただけませんか」というような話で組み立てていったほうがいいかなと。

その中で、農業振興課と話してるのは、議員さんにもおっしゃいましたように緑ネットワークの中に落とし込んで、栗園もなんですけど、ほかの作物も入れていく。総合的に考えて、ここばかりということではなくていろいろな作物の中で事業継承ができないかということでもあります。

「U-d o k i」に出た栗園は、私の栗園でありまして、ちょうど私がこういう立場になったときに、いろいろなことができないということを考えて、うちの家内が「誰かする人を」ということで探していったと。だから、それがあつ程度、そういう形になったということでもありますので、1つは、自分の栗園をどうするかという部分と、1つは、自分のキンカンハウスをどうするかという話の中で、事業承継を求めてきた経緯があります。

ですので、感覚としてはそういう形でいいのかなあというふうに、若い人を見つけて「どうですか」ということで、個人で相対して見つけてきましたけど、今度は、町としてそういう情報を出すバンクをつくって出していくと。それは美郷町内の人でもあるし、今度は外向き、日向とかいろいろなところを見てやはりそういう担い手を募集していくことになっていくのではなかろうかと。でない、中には人がいないということであれば、やはり外に向けての募集になると。そういう形のいろいろな情報提供の中で担い手をつくっていきたくと、そう思うところでもあります。

【3番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

3番、川村 義幸議員。

【3番 川村 義幸】

確かにそうだと思います。

後継者、今、町長が言われたように美郷町内だけではまず無理だと思っております。だから町外等にそれぞれのやり方で呼びかけて、呼び込んで、そして栗をもっともっと普及させていけたらなと思っております。まだまだこれからやれば、お金になるということをしつかりとPRしていただけたら、まだまだ若い人たちが入ってくるんじゃないかなと思っております。

これは「栗が風を運んだ」という本なんですね。実は昨日たまたま送ってきたんです、私のところに。これを見ると、農家の方たちをお菓子屋さんが育てて、栗農家がものすごくよくなって、栗農家の人たちの収入がものすごく増えてると。最初は2人で始めた栗農家が、今、70人くらいのグループ、2グループになっていてすごい収入を農家の方たちが上げている話がこれにも載っております。

この社長は、1次、2次産業だけじゃなくて6次を過ぎて7次までやりますというようなことを書いてあります。そういう取組をしつかりと町のほうでもやっていたら、もっともっと栗のほうは伸びていくんだと思うんですね。

だから、栗餡を作る工場を大事にし、そして、その栗餡の原料を作る農家をしっかりと育てて、そして、栗餡工場を成功させていただけたら、本当に美郷町もよくなるんじゃないかと思います。

特に、今、ふるさと納税の返礼品としてお菓子も使われようとしております。そのお菓子の原料をこの美郷の栗、先ほどの評判、あんなに評判の出る美郷の栗を使って、それでふるさと納税の返礼品にすれば、もっともっと有名になっていくかと思っております。そのためにも、やはりしっかりとした栗工場を整備し、そして農家も栗工場も働く人も、そして、それで得た税金が町に落ちるようにやっていけば、こんなにすばらしいことはないんじゃないかと思っております。その辺のことを述べまして、最後に町長の言葉をお願いします。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

ありがとうございます。そういうビジョンの中で1つの栗という産業であります。それをしっかりと下支えしていきたいと。

ちょうど北郷のほうで、昭和37年から昭和41年度にかけて早谷慶吉村長の時代ということですが、栗増殖5か年計画ということをやっております。

当時、127戸、35ヘクタールの実態があったということでもあります。そのときに、苗木の補助等をやって丹波、筑波、伊吹とかそういうものを品種にしてやってきたということでもあります。

ですので、西郷だけがという話でもありません。やはりこの気候風土に合った美郷町の産物としてしっかりと根を下ろし、そして、その餡としての価値観といえますか六次産業化に向けたものはやっていく必要はあると思っております。

「U-d o k i」の最初に青木定治さんと出ましたけども、以前、話しましたけど、この人が有名はパティシエでありまして、この人が作るお菓子が非常に高いと。小さな何かチョコレートみたいな栗みたいな、栗なんですけど、小さいのが5つくらい入って6,000円とか、そういう金額になってくると。そうなれば、本当、栗がどのくらいのお金に化けていくのかなという思いがします。

ですので、青木定治さんの何か製品を作るときの監修を受けて、それが2つになり3つになりという形になれば、本当に付加価値が大なるものがありますので、六次産業化の最たるものになっていくのではなかろうかと夢を見ていたところですが、また仕切り直しという部分で頑張りたい、そういうふう思うところがあります。

以上です。

**【3番 川村 義幸】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

3番、川村 義幸議員。

**【 3 番 川村 義幸 】**

ありがとうございます。本当にそういう考えで進めていただけたら、農家の方も、また栗餡製造の方たちも安心して働けるかと思えます。

今後、まだまだ栗が伸びる確率は残っております。また、今、町長が言われたように付加価値のつけられる本当の品物だと思っておりますので、最後までよろしくお願ひしたいと思えます。

これで、私の質問を終わります。ありがとうございました。

**【議長 那須 富重】**

これで、3番 川村 義幸議員の質問を終わります。

ここで、5分間の休憩をしたいと思います。

再開を10時33分としたいと思います。

(休憩：午前10時27分)

(再開：午前10時33分)

**【議長 那須 富重】**

休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

次に、1番、山本 文男議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

**【 1 番 山本 文男 】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

1番、山本 文男議員。

**【 1 番 山本 文男 】**

栗の次はシイタケのことについて、質問します。栗の熱量に対してはたじたじとなりますが、頑張って質問したいと思います。

シイタケは価格の低迷が続き、産業として成立できるかぎりぎりの状態にあると考えます。長年、続けられてきたシイタケ原木供給事業が今年度から廃止になりました。私も、シイタケ栽培を行っていますが、繁忙期に指定した場所に原木を届けてくれるありがたいものでした。幸い私には原木林があり後継者もいますので生産は続けられますが、この事業の廃止で後継者のいない中高年や女性の生産者、原木を持たない生産者の多くはシイタケ栽培をやめざるを得なくなると考えられます。実際、これを機に来年から駒打ちを止めるという人もいますし、大変、困ったという声も多く聞かれます。

廃止に当たっては、町長もつらい決断だったと思いますが、現在、困っている生産者の方々とこの廃止について何か話したことがおありでしょうか、お伺いします。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

シイタケという部分が私には本当に私には分かりづらいという部分があります。それは、自分でそういう生産活動に携わってきた経験がないという部分で、何が一番いいのかという部分で非常に分かりません。このシイタケ原木供給事業を続けていたんですが、その中で、令和3年度からちょっと事業の変更をしたという話の中で、これは私は直接、シイタケ生産者との協議はありませんが、農林振興課のほうでそういう協議会の中で、こういう形で説明をして了解を受けてるという話で聞いております。

ですので、一応、了解したのかなあとという部分がありますが、やはりどうしても問題は問題として残ってきております。

議員、言われるように、そういう人たちはどうするのかという部分で考えたときに、やはり自伐ができる人、また自分の原木を持ってる人、いろいろな形の中で対応していく必要があるなと思っております。自分で切る人は補助が出ないとか、いろいろなやはり不平不満が出てきた中での制度改正であります。この令和3年度において、今の制度を利用しながらもう少し自家原木供給事業をそういう人たちがいるという中で、ある程度、復活させていく必要もあるというふうに、私自身も認識しておりますので、その併用とかいろいろな形の中でそういう供給事業をやっていく必要があると。

それに比べて、また種駒の補助とかいろいろなもの、それと生産物、乾燥機とかそれとか共選、共同選果、そういうことをやっていますので、そういうことは置いて、やはり元型という部分で原木がどうあるべきかという部分を、そしてどういう形で補助をしていったほうが一番、生産者のためになるのかという部分をもう少し突き詰めていきたいと。

本当に申し訳ないんですけど、どうも実感としてシイタケが分からないというのが本当に率直な感覚なんです。「そういうことでいいとか」と言われたら本当にいかんとは思いますが、また、担当者そしてその生産者と協議しながら、本当にこれでいいですよという部分まで突き詰めていかんと問題かなあと。

それと、原木供給といいますけど、結構、美郷町の中では原木自体がやはり少しずつ減ってきてるということでもあります。町有林において原木供給事業で出したところが、自然萌芽して、そこをまた供給基地という形にしていこうという考え方をしております。

ですので、生産者にとりまして非常に難しい部分もありますが、1人の人はこういう言い方、2人目はこういう言い方と、それぞれ立ち位置が違えばいろいろな考え方も出てきますが、元型の原木をどうするかという部分については真剣に制度設計を図りたいと、そう思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

確認ですけど、原木供給事業の再考する余地があるということによろしいでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういうふうに捉えて結構です。

やはりどうしてもない人もいるわけですので、それと、持っている人と同じスタンスでものを考えていくということ自体が無理があるということでもありますので、何で原木供給事業がなくなったかという部分ではありますが、非常に単価差というか、結局、早く言えば森林組合等がボランティア的な負担までしてという話で組み立てていたという部分があります。

計算を農林振興課のほうでしていただいておりますが、だからその中で非常に不具合が生じた。それなら全額、町が見るのかとかいろいろなことを模索しながら、この供給事業はやはり復活をさせても生産量、生産額に結びつく重要なポイントとして位置づければ、それはそういう形になるというふうに私は思っております。以上です。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

私は、先日、民間がしている原木供給事業の資料を担当課に持ち込みましたところ、早速、内容を検討していただいて、現在、生産農家等にアンケートを実施していただいているところです。素早い対応をありがとうございます。

その再考ということに関しては、この民間の供給事業も参考に入れてということでしょうか。お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

担当のほうから、「議員からこういう情報を頂きました」ということで見せていただきました。それなら今までの原木供給事業と何が違うかという話で、結局、お金の問題になってくるんですけど、これでちゃんとした供給事業ができれば、これはこれで使いたいと。

ですので、9月1日付くらいだったと思うんですけど、各生産者にアンケート調査ということで出したということで聞いております。そのアンケートの結果がどういう形になるかは分かりませんが、集約して、その中で民間の供給事業になりますけど、それは大いに利用していても何ら問題はないということであります。

ただ、1つだけ、これは町外からという部分と、やはり町内もあれば大径材になってしまうと問題でありますので、やはり自然のサイクルの中で、そうなればその業者さんをお願いして、町の中のものも切ってもらえんかという話はしていく必要は出てくるのかなという感覚を持っていますが、そういうふうにしてこの事業をずっとしていただけるという話であれば、そういう形で利用をさせていただきたいというふうには思っております

以上です。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

私もアンケートの内容を見たのですが、やはり熊本県の阿蘇郡から運ぶということで、価格もかなり高いようです。

今までどおりの補助をした上での手出しの分といってもなかなか高額なもので、これじゃあ買うことはできんわという話を聞きました。私も、なかなかこれじゃあシイタケの価格からすると、この価格で原木を買って駒打つ人はおらんじゃろなあとも思います。そうすると、町の補助額をアップせざるを得なくなると思います。その辺りも厳しいものがあると思いますが、どうお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それぞれの生産者、やはり補助。結局、補助金でずっと出すものかという話であ



りますが、畜産にしてもそうですけど、カンフル剤という考え方もあります。

ですが、産業振興をしていくためにはやはりそこ辺は必要ではなかろうかという考え方をすれば出していくと。

先ほど来より「産業振興基金を何のために」という話で、今こそそういうところに使うべきではなかろうかという話であります。これも、また戻りますけど、栗処さいごうと同じようなことではないかと。金額的には多寡はあるんですけど、内容的に考えれば同じことだと、私は思っております。

ですので、産業振興をしていくためにはそういう部分があるということで、それを全部、こちらが出すという話ではありませんが、そこ辺も含めて、今度は結局、うちの補助残の部分で金額が高いと、それではやはり原木供給事業にはならんという話であれば、今までしてた1万円という部分を例えば、1万5,000円にするのか。そして、補助残というか、結局、手取りを幾らに、自分たちですよ、生産者が幾らくらいまで今の価格に対して出せるかという部分を精査して、今度は価格が下がる、上るに準じて補助額というのは変動してもいいんではなかろうかというふうには思いますので、そういう考え方で行ったほうが妥当であろうというふうにいるところでもあります。

**【1番 山本 文男】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

1番、山本 文男議員。

**【1番 山本 文男】**

分かりました。

私は、最初は生産者と町と森林組合がある程度、負担をして三方一両損のような形で何とかできないものかなとも思っていました。そういうことも含めて検討していただけるということですので、よろしくお願いします。

シイタケ栽培は町の基幹産業です。生産農家の所得安定と生産意欲をなくさないよう原木供給事業の継続をお願いして1問目を終わります。

2問目に移りたいと思います。

**【議長 那須 富重】**

2問目の発言を許します。

**【1番 山本 文男】**

次は、移住者の住居について、質問いたします。

通告書には、「人口減少が喫緊の課題だとすれば」と書きましたが、町にとって人口減少が喫緊の課題だと町長は思われるか、お伺いします。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

【町長 田中 秀俊】

昨日の黒田議員の一般質問の中で、「今後、何が重要かと。何が大切であると思うか」という話の中で、「人」ということで答えました。

人が住むためには定住するためには住居ということになります。それで、人が住んでいただければいいという考え方でありますので、その中には持家、それと色々な形の公共用住宅、空き家対策、いろいろなものが関連してくると、そういう形で考えております。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

いや、私が質問したのは、人口減少が喫緊の課題であるかということでした。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

何か違うことを考えておってですね。

人口減少が喫緊の課題であるということですので、そういう考えの中で、人を増やすという頭があると。ですので、人口減少は喫緊の課題であると。

昨日、言いましたように、「静かなる有事」と言った人がいるということで、そのまま戦争にはなりませんけど、人がどんどん減れば、国力が減るという話でありますので、やはり人口対策は喫緊の課題と、これは美郷町だけには限らないという話であります。

以上です。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

移住相談件数が年々、増加しているようです。広報みさとにも度々載っています。移住者が美郷町を選ぶ理由をどう分析しているのか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そこまで詳しくは担当とかそういうところに聞いておりませんが、移住者の方  
に会って「何でここや」というそういう話はすることはあります。何かいろいろな  
形でいろいろな場所に行って、外国も含めて、環境とかその匂いということも  
言ってます。どこかの町の匂いに似てるとか、そういう部分で何か自分が生活する  
には非常に心地が良いということです。ですので、その人たちに仕事はという話じ  
ゃなくて、仕事よりか前に何かそういう自然とかそういう部分で入ってきてるの  
かなあと。

それに併せて、今後は仕事を探していくとか、何かそういう感じかなあとい  
うふうに思うところでもあります。また、「何でか」という部分は政策推進室なりが  
つかんでおるとお思いますので、私自身はそういう感覚を受けております。

日向市に「何で増えるのか」と言ったら、「サーフィンがしたい」という話。何か  
そういう動機のものがある場合と、いろいろな形で入ってきてるのかなあとい  
うふうに思っております。

それと、やはりPRとか、美郷町の良さをPRした結果が、ある程度そうい  
う形につながってきてるのではなかろうかと。それぞれ立ち位置で違いますので、  
一概には言えませんが、ありがたいことだとは思っております。

以上です。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

町長は、今、「担当とはあまり話をしてないので、つまびらかには分からない」と  
いうことでしたが、喫緊の課題というならもっと職員とも政策推進室とももっと密  
に連携をとるべきだと思います。

それはそれでいいですが、職員に美郷町を選ぶ理由を訪ねたところ、1つには、  
南海トラフの理由もあるということでした。それと、ペットと一緒に暮らしたいと  
いう理由もありました。

移住者の住居につきましては、空き家バンクで対応しているようです。施政方針  
にも住居については、「官民一体となり空き家等情報バンク登録数の増加を図り、紹  
介できる住宅の確保に努める」と、書かれています。移住者の住居については、空  
き家バンクを利用していくことでよろしいか、お伺いします。

【議長 那須 富重】

ここで、少し後ろのほうで話し声が聞こえて、ちょっと質問者が集中した質問に  
支障が出ております。こちらのほうの執行部のほうもかなり気にしているようです

ので、ちょっとお控えください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

移住者だけが移住定住で空き家対策の中で入るという考え方は毛頭ありません。ですので、普通の公共用住宅といいますかそういう部分で、そういう部分で欲せば、そこに入れるとか、そういう形ととっていくべきではなかろうかというふうに思っております。

人口減少がそういう形の中で起こってきてるという部分で、住宅対策という部分もそれと併せて非常に大きな問題であるということは、もう重々、議員さんたちも認識してるのかなというふうに思っておりますので、やはり町として関係各課が集まって今後、どうするかと。住居というか住宅にもいろいろな住宅がありまして、その住宅を増やすのか、どうするか、空き家をどうするかという話に本当にしっかりと足を置こうと。入れていくというか、ただ、机上の空論の中でああじゃ、こうだという話はもう終わってるのかなと。

ですので、実際にそういう人たちが望むような住宅政策をやっていく必要が出てきたという部分で捉えておりますので、早急に企画情報課を中心にしてそういう会議を行って、具体的な政策を令和4年度辺から乗っかけていくということが大切かなと。こういう住宅がありますのでどうですか、こういう空き家がありますのでどうですかということで、空き家対策をしながらやっていけば、ある程度の移住定住というのは図られていくというふうには考えるところです。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

広報みさとの記事によりますと、移住者は入りたいのに空き家バンクの登録数が増えていないように思います。その理由と対策をお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

空き家の情報はいっぱいつかんで出していると。そこにいろいろな定住したいという人たちが来るという話で、今度は担当と一緒に連れて行って現場を見てもらうと。どこ辺がいいかという話になるんでしょうけど、1件目が駄目だったら2件目とか、そういう形でずっと回るけどなかなかマッチングができてないという部分かなと思いますので、そこ辺は担当課長のほうからちょっと答弁させていただきますので、御了承願います。

**【政策推進室長 沖田 修一】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

政策推進室長。

**【政策推進室長 沖田 修一】**

空き家バンクの登録がなぜ伸びないのかというのは、いろいろ要素はあるんですけども、やはり1つは、空き家の管理に困っていない方、また、仏壇とかあったりとかまた盆とかに帰ってこられる方もおられますので、そういう方もいるというふうに思ってます。

あと、空き家を貸す場合、やはり貸し方もいろいろあるんですけども、ちゃんと整備をして、傷んだところを全部、修繕しないと貸せないというような誤解をされている方がいます。貸し方によって、そのまま貸して、あとは自分で自由に修繕して使ってくださいという方法もありますので、そういった周知がちょっと足りないのかなというふうに思っております。

うちの職員のほうが6月の区長会のほうでお願いしまして、地域の方が空き家の掘り起こしをしていただけないということをお願いしました。どうしても私たちも、あそこに空き家があるがということでちょっと声をかけたりするんですけども、やはり身近な人じゃないとなかなか「うん」と言ってくれないんですよ。地縁とか血縁がある方が積極的に声をかけていただけると、空き家バンクの登録数も増えるんじゃないかというお願いはしてるんですけども、なかなか今のところそういうことを一緒に町として取り組んでいただける返事は頂いていないということで、どこかモデル地区をつくって一緒になってそういうこともしていきたいなというふうに考えてます。

以上です。

**【1番 山本 文男】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

1番、山本 文男議員。

**【1番 山本 文男】**

その職員が区長会で、空き家バンク事業を地域住民を巻き込んで実施したい旨の

提言をしたということを知りました。私は、いいことだと思います。

多くの住民は、空き家の補助制度とか移住者の中には山奥の空き家にも興味を持つ人がいるようなことを知らないと思います。広報紙に「空き家が不足しています」と記事を書けるだけでなく、その担当職員を地区の町政懇談会に行っていただいて、たっぷり時間をかけて移住者空き家バンクについての説明をしてもらうのも有意義なことだと考えますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町政懇談会等々でそういうお話が出てきたときには、ある程度、答えているということではありますが、やはりこれから先、総合戦略の中で地区別戦略という部分がありますので、その中で最終的にその地域、地域が考えるという部分で、そういう問題が出てくるのかなあと。そこで、本当にこの空き家をどうするかという部分で考えてほしいというのが、こちらの思いであります。

ですので、議員、小原にいますけど、小原の空き家がどこにあって、誰が所有してどういう状態にあるのかという部分を考えていただき、その空き家をどうしたいのかと、その所有者はどうするのかとか、そういう形までなっていくと非常にいいのかなあという気はしております。

ですが、役場としてそういう部分をしっかりと説明する必要はあると思っております。言うように、空き家ばっかしじゃなくてこれから先、住宅をどうするのかという話で、やたらめっちゃに多くしても、その数というものがあるような気がします。次の山田議員の話になると、今度はやはり山奥に住んでいる人たちの住宅という部分で、高齢化するとやはり不便になってくるということで、今度は逆に高齢者住宅を町の中に造ったほうがいいんじゃないかとか、いろいろな思いの中での住宅政策になってこようというふうに思っておりますので、それを総合的に考える必要があるのではなかろうかと。

1回ですね、1年目は、6地区では川西が出向いて説明はしてるということでもあります。その地区別ではですよ。議員が言うのは、懇談会でやったほうがいいんじゃないかという話でしょうけど、そういう部分では、出てきたらこうだという話をしてますけど、私が重きを置いているのは、やはり地区別の移住定住の中でしっかりとした計画が出てくればいいかなあというふうには思っておるところです。

ですので、先ほども言いましたように総合的にいろいろな住宅をどう考えていくかということをもう本気で考えていく必要が出てきたと。今までその空き家もなんですけど、住宅に関してももう古いのは壊す、新しく建てる、そういう部分でやはりリニューアルしながら人口増を図っていききたいと、そういうふうには思うところでもあります。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1 番、山本 文男議員。

【1 番 山本 文男】

今、町長がおっしゃいました地区別定住戦略の成果が出るのはいつ頃でしょうか。喫緊の課題というなら、それなりの対応の仕方があると思いますが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

1 つは、そういう担当を置きながらやっているという話で、その成果がいつ出るかという部分はまだこれも分からないと。川西君が、担当者がしっかりやっています。その成果云々ではなくて、やはりこれはそれぞれの地域が自分事という感覚の中でやってほしいと。

ですので、今年してすぐ来年できるかという話でもないような気がします。言いますように、総合的に住宅政策を考えていく必要があるということで考えておりますので、確かに定住とか人口が減少していく中で、住宅だけが問題なのかという部分もありますので、ほかの部分で移住定住ではないけど事業承継の中で農林のほうに産業の加入者というか担い手として入って来れば、いろいろな形でまた人口が増える要素にもなるということでもありますので、いろいろな面が左右するというかそういうことではなかろうかというふうに思うところでもあります。

以上です。

【1 番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1 番、山本 文男議員。

【1 番 山本 文男】

空き家バンクから公営住宅についても話を進めたいと思います。

総合戦略には、「公営住宅の整備を進め移住者の確保を目指します」と書かれています。また、喫緊の課題とは、急いで解決する必要がある切迫した問題だと私は理解しております。総合戦略の策定が人口減少という最大の課題に取り組むがためのものであるならば、公営住宅の整備を早急に進め、移住者の住まいの確保を目指すべきだと考えますが、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それがために喫緊の課題であり、喫緊に対応してるかという話になると、議員の感覚ではそうでないということになるんでしょうが、私としては、喫緊の課題を解決するために、喫緊にそういう政策的につくって行って、3年、4年の後にはそうなるという部分でしっかりとした政策を今、立てるということで考えておりますので、今まで何もしなかったという話ではなくて、そういう考えを改めてというか温めながら、やはり総合的に無駄がないように考えていくことが大切だろうというふうに思っておりますので、そういう形の中で進めさせていただきたい、そう申しております。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

私は、移住者の住居に関して公営住宅の整備まではなかなか大変じゃないかなと思うんですけど、総合戦略にはそう書かれています。書かれていますのであれば、町長が言う「決しておろそかにできるものではない」ということですから、いずれ移住者のための住宅を造るということで、整備するというところでよろしいでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今までも住宅関係のリフォームとかいろいろな形で予算的にはやってきたつもりであります。

やはり古いところはどんどん直していくという形の中でやってきてますし、それをそういう単発といういろいろな住宅の計画があるんですが、それと、やはりここに来て移住定住という空き家とその住宅の種類によってどう考えていくかということも1回整理する必要が出てきたという部分も問題になるという気がしてますので、ただこの住宅だけを単身を造ればいいのかそういう話ではなくて、総合的に今の人口を分析し、今後、移住定住を推進していくためにはどういう住宅が必要かという部分を含めた中でやっていく必要が出てきたのではなかろうかと。それを令和4年度から実際に予算計上しながらやっていくということで御理解をいただければと思っております。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。



【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1番、山本 文男議員。

【1番 山本 文男】

はい、分かりました。

次に、独自の空き家対策で移住者を集めるある町の取組を紹介します。町長は恐らく御存じのことだと思えます。

空き家は多くあっても知らない人に貸すのは面倒とか家の改修にお金をかけたくないという家主の理由で貸し出されない家も多いことから、町が10年ほど家主から家を預かり、最低限の改修をして移住者に貸し出し、かけた費用を回収できた後に家主に空き家に戻すという仕組みです。

町に預けている間は家主に賃料は入りませんが、10年後にはリフォームされた家が戻ってきて新たに貸し出すことも可能になります。改修費の2分の1は国庫補助で、残り4分の1ずつを県と町との負担となっているようです。

魅力的なやり方だと思いますが、こういう取組、町長は御存じでしょうか。そして、どう考えるのかお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

テレビやらでもいろいろな貸し方というかそういうものの中で、こういう貸し方があって、後にこんげになりましたとかいろいろな方法が今あると思いますので、今さっき言いましたように、ひっくるめた中で住宅政策の中で、ほんならそういう部分をどうするのやと、ほんなら、議員がおっしゃったようなそういう形は本当に可能か、できるかという部分でやはりそれも検討をしていくという形のほうがいいかなど。全て町が購入してリフォームして貸すとか、そういう部分ばかりじゃなくて、そういう物件もあればそういう物件もあってもいいというような気がしますので、多種多様な考え方の中で、その家に、家主さんもいることですし、そこにマッチしたような形での賃貸というかそういう部分は今後、それぞれの物件に対して、家主さんが貸してもいいですよという話が前提ですけど、そういうことは考えていく必要はあるのかなというふうに思いますので、参考にさせていただきたいと、そう思うところであります。

【1番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1 番、山本 文男議員。

【1 番 山本 文男】

最後に、お試し滞在施設のことについて、質問します。

町には、黒木と耳川温泉にお試し滞在施設があります。2 つとも当初から稼働率はあまり良くありません。

延岡市を調べてみても、北方のほうに1軒くらいのお試し滞在施設があるようですが、その稼働率が悪いのであれば、黒木の郷を移住定住住宅施設として活用してみてもどうでしょうか。

もちろん国の交付金事業でできていますので、もし条件が許せばということですが、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

もう議員がおっしゃったとおりだと思います。そういう用途変更が可能であれば、そういう方向性は探っていくべきだと思っております。稼働が悪いのをそのままにしておって、何か朽ち果てるよりかいいい方向に動かすと。言われるように、国県が絡んでいるということで、これは協議していきたいというふうに思っております。

「いいですよ」という話になれば、そういう方向性が一番いいかなというふうに思っておりますので、国県が許せばという条件付ではありますが、これはいつか切れるわけですので、「切れる」と言っていて、これはすごく長い時間になりますけど、そういうことで議員おっしゃるとおりそのような方向性を見いだすがために、国・県との協議をさせていただきたいというふうに思います。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【1 番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

1 番、山本 文男議員。

【1 番 山本 文男】

ありがとうございます。

私の組合にも炭焼きで移住した夫婦の方がいますが、奉仕作業もしっかり参加していただいているところです。

私は、いずれは地方、末端の田舎はそういった渡ってきた人たちが救ってくれるような気がしているところです。

以上で終わります。ありがとうございました。

【議長 那須 富重】

これで、1番 山本 文男議員の質問を終わります。

【議長 那須 富重】

ここで、10分間の休憩とします。  
再開 11時25分までの休憩とします。

(休憩：午前11時15分)

(再開：午前11時25分)

【議長 那須 富重】

それでは、全員おそろいのおようですので、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、10番、山田 恭一郎議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

通告に基づき、事業承継と居住形態の将来予測について、一般質問をいたします。

「白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり」そんな言葉で始まる人生相談のような一般質問をさせていただいたのが4年前のことでありました。町長から、「1人で飲むと寂しいことばかり考えますよ」と、「酒はみんなでわいわい飲みましょう」と、御提言をいただきました。

コロナ対策で、集まってわいわいがやがやと宴会を楽しむのもそういう御時世ではないので、今日も1人むなしく外の鈴虫の声を聞きながら考えたことを、私の人生をかぶせながら質問をさせていただきます。

前段がすごく長くなりますけど、御了承ください。

昭和20年代生まれの世代、いわゆる団塊の世代が美郷町で一番多い世代となります。私も御多分に漏れずこの世代であります。あと10年で80歳。20年で90歳、その時どう生きていくのか思案のしどころであります。

葬儀の時、御導師が説教で、「生きる勇気と死ぬ覚悟、加えて生きる勇気と老いの支度」そんなお話をされました。70歳の私の心に深くしみました。

我々がまだ若かった頃、昭和40年、50年代、家には親がいて祖父がいて、学校を卒業したら家に帰り家業を継ぐことが当たり前のような時代でした。祖父が孫を自慢し、親は我が子に期待と信頼を寄せました。隣近所にも若者がいて、地域で野球、バレー、ソフトボール、駅伝などグループをつくることができました。地芝居に盆踊り、お祭り、イベント、運動会、全て青年団の我々が主役でした。体を壊すくらいたくさんさんの交流の場がありました。

その中で、家業の仕事に精を出し、現金収入を得るために山林作業や建設業に勤め、結婚、子育て、教育などで忙しい大変な時代でありました。しかし、今思えば楽しい人生のひと時であったと懐かしく思っております。

今、ふと周りを見回すと、祖父母は既になく、親も近年、葬儀を済ませました。子供は町外で新たな人生を歩み始め、孫のふるさとは町外になってしまいました。地域内の家庭の夫婦だけの世帯の何と多いことか。そんな時代と言えばそれまでですが、子供は子供の人生を大切にす時代となりました。

祖父が大切にして親がつかないできた家業や財産を承継することが子供の人生の価値観に要る時代となりました。その子供たちに、今の生活を止めてふるさとに戻し、事業を承継することを望むことは難しい現実があります。

美郷町は、移住定住について専任担当職員を置いて、空き家バンクを創設して、改築や家財道具の片づけなどに補助金を出して対応をされております。

地域の人口の減少を食い止めようと、美郷町地区別戦略会議も始まっております。私は、その会に毎回、参加して意見を聞いておりますが、人口減少を食い止める具体的な特効薬のようなアイデアはなかなか難しい気がいたします。

そこで、事業承継の提案を今回、いたします。

この頃、亡くなった御夫婦がいらっしゃいます。生前、「今、私たち夫婦がやっているように農業をやれば、子供2人くらいは十分、育てることができるんだけどね。希望者がいれば、いつでも譲ることができるんだけどね」と、言っておられたのを思い出されます。しかし、誰にもその農業事業をつなぐことなく亡くなられました。残念でした。

現在の定住促進策では、美郷町に住んで仕事を得ることはなかなか難しい側面があります。今まで地域おこし隊協力隊で美郷町北郷に移住して、宇納間備長炭の技術の習得を目指された方が多数いらっしゃいました。

しかし、製炭業を生活の糧として暮らすには難しい経済的現実には直面して、夢敗れて村を離れた方がほとんどであります。

木炭生産者の事業、すなわち炭窯はもちろんのこと、農地や山や家の全ての事業を承継するという選択肢があったなら、もう少しはこの町に滞留することができたのではないかと考えております。

団塊の世代の人たちは、今までしたたかに生きてきたプライドと生きる術をこの美郷町に持っております。我々、団塊の世代はこの美郷町で生きていける生活基盤をまだ持っております。その生活基盤を自分の子供につなぐことが気持ちの上ではベストです。

しかし、それが望めない以上、第三者に承継することで、この美郷町で生きた証をつなぐことができると思います。地域も新たな仕事の担い手が出現することで活気が出ると思います。

宮崎県も、この事業承継に対して力を入れております。当初、中小企業診断士に外部委託していましたが、現在、宮崎県商工政策課に宮崎県事業承継引継センターの機関をつくり、スタッフ20人ほどで活動されているようです。詳しくは分かりませんが、事業承継を仲介とする業者に経費の補助もあるようです。

美郷町においても、定住促進策として事業承継を政策として考える時期が来てるというふうに考えます。第三者への事業承継を産業の継続策として進める必要があると思いますが、町長のお考えを伺います。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いつもながら山田議員の一般質問の前ですけど、何か小説の序文を聞いているようでございます。

御存じのとおり日本全国で少子高齢化が進み、同様に各種産業の経営者の高齢化も進行しており、今後さらに多くの事業者が、後継者問題により廃業することが予想をされております。

こうした状況は、これまでの事業運営で培われてきた経営資源の損失であり、また、国や県も特に憂慮すべき問題として捉え対策に動き出しているところでございます。

本町でも少子高齢化が急激に進む中、15歳から64歳までの生産年齢人口も減少を続けており、後継者や担い手対策を含めた労働力の確保がそれこそ喫緊の課題となっております。

本町商工会が平成30年度に会員へ実施した事業承継の調査結果によると、「自分の代で清算・廃業予定である」と回答された方が46.3%で、その理由としては、「適当な後継者がいない」との回答が61.8%であったとの報告を受けております。

農業分野においても、生産者の高齢化や後継者不足により、経営耕地面積は年々、減少しております。農地の遊休化や荒廃化も進んでおり、その解消が重要な課題であることは議員さんも御案内のとおりであります。

農林業は、家族経営の比率が非常に高く、2020年農林業センサスの調査結果では97%を占めています。また、後継者を確保できている経営体のうち約95%が親族となっておりますが、全体で見ると約7割が後継者を確保できていないという結果となっております。

このような状況を鑑みると、第三者への事業承継は後継者不足、担い手不足を解消する最も有効な手段であると考えております。

町としましても、後継者や担い手不足を重要な課題として捉えており、8月19日に役場内の関係する3課（企画情報課、政策推進室、農林振興課）及び美郷町商工会事務局を交えて後継者対策会議を開催したところでございます。

会議の中では、後継者や担い手対策の一つとして、事業承継についても重要な対策として位置づけ、連携して取り組んでいくことを共通認識として確認をしたところでございます。

今後の具体的な取組としましては、まずは基礎データの収集として、商工業者及び農林業者へ事業承継に関するアンケートを実施しまして、第三者への承継を含め事業承継の意向を確認したいと思っております。

商工業者へは、商工会の協力を得ながら連携して取り組むこととし、農業分野では本年度、美郷町栗部会を中心に、栗生産者に対し事業継承を含めた意向調査を実施しますが、今後、他の部会等にも同様の意向調査を行います。

併せて、事業承継という取組が、まだまだなじみが薄く知名度も低いことから、事業承継の周知を図るために広報誌等での紹介やセミナーの開催についても、積極的に取り組んでまいります。

また、町のホームページ上に後継者人材バンクを開設し、先ほど述べましたアンケート調査で、事業承継の意向がある場合は、承継の内容をアップし、本町へ移住を希望する方や町内で仕事をお探しの方に広く情報を発信してまいります。

さらに、本町の後継者人材バンクへの登録はもちろんのこと、宮崎県事業承継・引継ぎ支援センター等の関係機関へも情報を登録するほか、空き家バンクや県の移住サイト等と連携を図るなど、引継ぎを希望される方とのマッチング機会の創出に努めてまいりたいと考えております。

事業承継の事業を展開していく上では、公的機関として開設されている宮崎県事業承継・引継ぎ支援センターや宮崎県農業経営相談所との連携が必要不可欠であり、専門的な知識や豊富な経験などから、経営上の様々な問題についてアドバイスを頂けるほか、資産評価や契約書作成等の、事業を承継される方が一番不安に感じる部分の支援も行っていただけると伺っております。

このようなことから、町と県の関係機関との役割を明確にし、町では事業承継を希望される方の掘り起こしや情報発信を担い、マッチングや承継へ向けた手続きは県の関係機関と連携しながら取り組んでいくことを想定しております。

このほかにも、金融機関も事業承継の専門部署を設けるなど、精力的な取組を始めていることから、資金面での不安や相談につきましても、連携して取り組んでまいりたいと思います。

また、国でも農業分野におきまして、本年度より高齢化する担い手から経営を継承し、発展させるための取組を支援する経営継承・発展等支援事業を創設し、継承して間もない経営を軌道に乗せるための投資を柔軟に後押しするとしております。

町としましても、これらの制度を広く周知することにより、第三者継承の推進を進め、農林業の衰退防止、地域活性化につなげてまいりたいと考えているところであります。

御質問にありますように、移住・定住促進と事業承継などの「しごとづくり」は密接な関係にあると思っております。

令和2年に内閣府が行った東京圏在住者に対して行ったアンケートではありますが、発信してほしい情報としては、「仕事、就職に関する情報」が60.3%と最も高く、移住と仕事は切っても切り離せない関係であることが分かります。

第2期美郷町まち・ひと・しごと総合戦略にも4つの具体的な政策として「子育て支援」「地域づくり」「移住・定住支援」、そして「しごとづくり」が掲げられており、その中でも次代を担う意欲ある若い人材を確保、育成するため、担い手となる人材を広く募り、技術の習得に加え、定住も含めた総合的な就業対策に取り組むなど多様な働く場を創出していくことの重要性が盛り込まれております。

コロナ禍により、一層「田園回帰」が叫ばれる中、移住・定住対策をさらに推し進めるためにも、事業承継について、積極的に取り組んでまいる必要があると、そう考えているところであります。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁が終わりました。

**【10番 山田 恭一郎】**

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

事業承継で一番にネックになるのが、事業をしたい、承継をしたい。ただ、資金がないと。それが一番のネックであります。

この前、試算してみましたら、800万円借金したときに年利1%、40代の人  
が20年のローンを組んだ場合に、3万数千円くらいが毎月の支払いとなります。

日向辺りの1LDKのアパートを借りても5万円はします。それで800万円の  
資金でその家と少ない田んぼくらいが買えたら、非常に移住としては魅力のあるも  
になるんだらうというふうに考えておりますが、その移住者に対する資金的な部分  
の支援というかお世話とか、そういうものはないものでしょうか、町長。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほど、申しましたように、いろいろな形で県の支援事業いろいろな中での考え  
方と美郷町の事業承継に対する制度設計というものをつくった中でのそういう支援、  
政策というものをまだそんなに頭の中で事業承継という部分が入っておりませんで  
したので、今後そういう事業承継をしながら人口増、そして産業の維持ということ  
を考えていきますれば、やはりそういう制度設計を考えていきたいと。

スムーズに事業承継が行われるためには何が必要かということが重要な課題。そ  
の中でもそういう資金とかそういうことが必要であるということでありますれば、  
やはりそういう方向性に進んでいく必要があるというふうに思うところです。

ですので、事業承継をスムーズにするためには、何が必要かということは今後、  
商工会等と協議しながら進めてまいりたいと、そういうふうに思います。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

事業承継にはメリットとデメリットがございます。

それは、事業承継で家や山や農地や作業機械などを売り渡すことで資産の販売代  
金が生まれます。それが老後の生活資金となり、また事業を承継することで新たな  
生産者や事業主が生まれ、農協や森林組合、商工会の仕事場の活性化にもつながり  
ます。

しかし、譲り渡した人は住むところを失います。その資金で近隣の利便性の高い町に引っ越されたら、元の木阿弥ということになります。

そこで、住宅の建設となります。各地域の中心地に高齢者が住みやすい高齢者専用の住宅が必要となります。今は自由に車に乗ることができても、いずれ免許証を返納するときが必ず来ます。高齢者に最低限、必要なものが病院と買物です。歩いて行ける範囲に、この2つの条件がかなう場所に住宅を建設することが必要です。

公共の高齢者住宅は福祉の色合いが強くなります。県や国の政策の高齢者住宅は均一、シンプル、同じもの団地が基本であります。田舎の人ではそれはなかなか納得できないものとなります。

しかし、建設される住宅は、事業を譲り渡した住民の個人の要望に即した住宅が求められます。少なくとも、女性がそこに住みたいと思わせるような住宅の建設が求められます。例えて言うなら、西郷で言えば、譲り渡した人が田代の別荘に住み、そこで人生を楽しむと、そういうふうな高齢者の住宅が西郷の地域にできるといいというふうに私は考えております。

テレビのコマーシャルに、自分の家売って老後資金を手に入れて、その家に家賃を払って自分の家に住み続ける事業が紹介されております。この事業、売上げを伸ばしているようです。この事業の美郷版といてもいいと思います。

町中心地に高齢者が住んでいただく政策と事業承継と連携することで安心して住みやすいまちづくりができると思います。新しいまちづくりの案としての事業承継策を進めてほしいものですが、非常に長期ビジョンの話ですが、町長のお考えをお伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】  
議長。

【議長 那須 富重】  
町長。

【町長 田中 秀俊】

本当に突拍子もないというか、自分の頭の中に事業承継を中心としてまちおこしとかそういうこと考えはありませんでした。

住宅は、町民の生活基盤でありますので、地域活性化に向けた人口の受皿としての役割や地域課題の解決に向けた地域資源として活用される可能性は持っているという認識はあります。ですので、その住宅の必要性は大であるということでもあります。

今後、山田議員が提案してるいろいろな形での住宅、住宅の形態もなんですが、先ほど、山本議員の中でも話しましたように、総合的な住宅政策という中の1つの部分としての位置づけも必要かなと。

それも、住宅かどうかという部分も問題なんですが、やはり今度は手放すという部分で来たときに、やはり全部、画一的な住宅ではいけませんよというその前提条件が出てくるといことになると非常に難しい部分もありますが、結果的に今後、高齢者が増えていったときに、災害とかいろいろなものを含めると、やはりこの住宅を集めていくということは本当に大切なことではないかと。それが町民にとって安全安心というか、そちらのほうにつながっていくことを考えていけば、しっかりとした政策を本当にやっていく必要があると。

ですので、先ほども言いましたように、やはり関係課、1回練って、それを町民



にこういう形でどうでしょうかという部分で聞きながら住宅政策を進めていって、定住人口の増を図りたい。本当に事業承継がそういう形に絡んでくるということをつくづくそれもありかという部分で考えたところであります。

議員が思うような形になるかどうかは分かりませんが、その都度、こちらからこういう形でどうでしょうかということでは、議員の皆様に出していこうと思いますので、そのときに御意見やらをいただいて、それじゃあ駄目だとか、そういう形で御審議いただければなあと思っております。

以上です。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

自分の住む家がより良い住む家が、どこかに担保できれば、事業承継というのは意外とスムーズに行けるといふように私は考えております。また、検討をしていたきたいと思います。

今後、高齢化が進み車を運転することができなくなった場合、ますます公共交通機関の充実が求められます。しかし、全ての人の求めに応じることは難しいことでもあります。

長期計画の中で、地域の中心部もしくは国道沿いに住民を集めることも政策として必要があると思います。

昨日、東京で93歳の方が運転を間違っただけで事故を起こし親子を死亡させた裁判で、御本人は「車が暴走した」と主張されましたが、禁固5年の実刑の判決が下されました。NHKのアナウンサーが、「運転したくなくても運転しなければならない社会的現象があります。この問題を解決することも政治的課題です」と、コメントが載せられました。まさに、美郷町もますます現実の問題として我々が背負っていく課題だと思っております。運転ができなくても生活ができる環境づくり、これに取り組む必要があります。

町長が各家庭に郵送された文書の中に、これからの町政運営としての項目がありました。「高齢者が安心して暮らせるきめ細やかな福祉のサービス」、さらに、「美郷町公営住宅等長寿命化計画に基づき、移住定住を見込んだ住宅ニーズの把握と対応」と、記載をされておりました。

私は、その住宅ニーズの把握の中に、町中央部に高齢者の移住定住の住宅ニーズの把握を加筆されてもらいたいものだと思っております。

また、町長は、令和3年年頭の町長の挨拶の中で、「子育て支援、地域づくり、しごとづくり、移住定住支援」と挨拶をされました。私は、さらに踏み込んで、事業承継で移住者に豊かな自然の中で子供を育て、地域に参加していただき、地場産業の振興に寄与していただき、高齢者は免許がなくても生活できる環境があるところに移住定住をしていただく政策が必要だと思っておりますが、総合的に考えて、町長の事業承継と定住についてのお考えをお伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当に山田議員が指摘したとおりで非常に難しいというか、やるべきことがたくさんあるということだと思っております。

ですので、総合戦略の中で4つの柱を掲げながら美郷町をということで引っ張っていきたいという考え方には変わりはありませんが、その中に、事業承継という部分とまたそういう住宅という部分も加味していただけないかという部分であります。それはそれでしっかりと受け止めていきたいと思っております。

結局、人ということが一番大切だということをおっしゃいました。人がいなければその集落もあり得ないということでもありますので、人をつくっていくということが一番大切であると。人がいるためには住宅も要る。そして仕事も要るということでもありますので、そういう中の連携の中で、人づくりとか子供を育てる環境とかいろいろなものも連動してくるという話の中で組み立てていく必要があると。

その中で何を先にするかという部分が非常に難しい部分ではありますが、やはりそういう今あるものをいかに残していくか、いかに承継していくことが大切か、それにプラスアルファ住むところという考え方をすれば、まさに議員がおっしゃるようなことになっていくというふうに思っております。

ですので、農にしても商にしてもいろいろな形で今あるものを失うことは全て損失につながっていくということでもありますので、今まで培ってきたいろいろな力を今度は次世代の人につないでいくために努力をし、また、渡した人の住むところという部分も考えなくてはならないということでもありますので、そういう事業承継を含めた中で、住宅政策そして産業の振興という部分を一緒に考えていく必要があるというふうに考えておりますので、また、こういう方向でやっていきますという部分で説明をさせていただきたいなあと、いろいろな形で情報提供しながら、また、議員さんたちの御意見をいただければいいかなあというふうに思っております。

対話と協働という話の中で、「対話はせんじゃねえか」と言われておりましたので、今度は対話をしながら、ある程度、言われるよりかどんげしたほうがいいちゃろうかと、逆に聞くほうになっていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

以上です。

【10番 山田 恭一郎】

議長。

【議長 那須 富重】

10番、山田 恭一郎議員。

【10番 山田 恭一郎】

以上で、私の一般質問は終わりますが、数日前、1本の電話を頂きました。

90代のお独りで山奥にお住まいの女性の方からでした。「車を運転することができなくなりました。車がないことがこんなに不自由なことだとは思ってもみません

でした。病院には子供が日向から来て、連れていってくれます。でも、日向の子供のところに住むなんて、とてもできません」と。「毎日がすごく不便で不安で困っております」そんな電話でございました。

さらに、「私たち夫婦は若いとき、家を新築しました。そのとき、今は亡き主人が村の中央部に家を建てようと言いました。でも私は、ここがいい、ここがいいと強く反対をいたしました。今になって後悔をしております」そんな電話でございました。

高齢になって独りになって、住み慣れたところを離れることはつらいことです。早いうちの準備が必要だと私は思います。まさに生きる勇気と老いの支度であります。終わります。

**【議長 那須 富重】**

これで、10番、山田 恭一郎議員の質問を終わります。

ここで休憩に入ります。

再開を13時とします。

(休憩：午前11時54分)

(再開：午後 1時00分)

**【議長 那須 富重】**

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、4番、川村 嘉彦雄議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

4番、川村 嘉彦議員。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

昨日から今日、午前中に引き続いてですのもう疲れていると思いますので、できるだけ要約して短くしたいと思います。

今、地籍調査が南郷と西郷で行われておると思っておりますが、西郷ではその山の権現山の一角ですね、大きく分けると千本地区と珍神地区、そして業者は3社入っているそうですが、私、立会人をしておりまして、ちょうどセンターの後ろですね、病院の後ろから上野原の間の立ち合いをしてるんですが、これは事前に林道なり作業道をユンボで押していただいて、道路と山のその境が物すごく分かりやすく、事前にそういった対応をしていただいて、私たち立会人としてもスムーズに事業が進んでいくことに対して、お礼を申し上げたいと思います。

特に、県外の人たちも帰ってきて、自分の山の位置が分からないというような人が多い中で、そういう道を整備していただいておりますので、この場を借りて、私がお礼を言うのかどうか分かりませんが、立会人として順調に進んでいることに対してお礼を申し上げたいと思います。

早速ですが、本題に入りたいと思います。事前に通告しておりました生活道路の

草が覆い茂っているところがあり、事故等の心配がある。除草はできないかということではありますが、これについては、谷内それから中尾、大久保線、この3路線であります。かなり路面に穴が空いたり草が茂って生活道路としては厳しいという話を聞きました。

私も実際、行って見たんですが、雨降りだったので木やら杉がこう一面に道端に覆い下がって厳しい状況でありました。まだほかにも路線についてはあるかと思いますが、ここは戸数が2軒から4、5軒なんですね。かなりの高齢者でありますので、この辺の対応をどう考えているのかお伺いをしたいと思います。よろしく願いいたします。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁を許します。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

議員おっしゃいますように生活道論の安全を確保するということは本当に大切なことでもあります。道路によって、そこで事故が起きたときの管理責任を問われていきますので、しっかりとした管理をしなければならないというふうに思うところがあります。

そこに利用度が、頻度があるかないかという部分はさておいて、やはり通ったときに危険性を感じるような道路であれば、やはり随時、修繕等を施してしっかりと安全対策を行うべきであるというふうには思っております。

下区、中区、上区、非常に中山間地域のほうでもやはりその路線が狭くて草や木が覆い茂っているということでもありますので、特にそういうことが必要であろうかとは思いますが、建設課それと職員等々と地元の人の要望等に応じて、そういう形の修繕等はやっていきたいというふうには思っておるところでございます。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁が終わりました。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

4番、川村 嘉彦議員。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

ここはやはり3、4軒で高齢化であります。さっきも話が出ましたからもう要約をしようと思ったんですが、やはり住み慣れたところがいいと。しかし、やはり高齢で草を刈ったり、かなりの距離があるんですね。ですから、「どうだろうか」とい

う相談がありまして、私はずっと行って見たんですが。

中区やら上区の人にも聞いたんですが、あそこは人口が多い戸数全然、多いので、この3路線についてはかなり人が少なく戸数も少なく管理が大変だという話でありますので、再度、どうかをお伺いしたいと思います。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

先ほども言いましたように、道路は人が使うという部分で、その頻度はいろいろな路線によって差があるというふうには思いますが、やはりそこで生活する生活道が非常に危険性があるということであれば、しっかりとした修理をしていく必要があるというふうに認識しております。

建設課の西郷下区、谷内・高崎・大久保線路ということですが、それぞれにお金は分かりませんが、西郷地区の町道関係で令和3年度ですけど、7月末までに費やしたお金が900万円くらいあるという中で、下区に180万円程度、中区に300万円程度、そして上区に120万円くらいのそういうお金は出していますということですが、これで全てが良くなったわけでもないはずですので、しっかりとまた精査をしながら、やはり危ないところは直していくということが基本的なものだろうと思っております。

地区の要望等に応じながらやっていきたいなあというふうに思っております。本来に路線数も多く、その延長も長いということですが、生活道はしっかりとやっていきたいと。そんなに利用しない林道とか、林道を利用しないということはないんですけど、やはり生活道は優先してやっていきたいというふうには考えております。

以上です。

**【議長 那須 富重】**

町長の答弁が終わりました。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

4番、川村 嘉彦議員。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

よろしくお伺いしたいと思います。

特に、道が長いので途中で穴が空いてるんですね、水がたまって。ちょうど、たまたま私は雨が降った日に行ったのでそうだったのかもしれないけれども、ぜひ、現場でも見てもらって、全部舗装というのは相当な金が要ると思いますので、部分的にでも穴の空いたところを砂やコンクリでも混ぜて塞いでいただければ対応でき

るのではなかろうかというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。  
次に移りたいと思いますが、よろしいですか。

**【議長 那須 富重】**

2問目の発言を許します。

**【4番 川村 嘉彦議員】**

今のは対応できるという解釈をしたので、次に移りたいと思います。

国道などの白線についてということで、道路の白線がすぐ消えかかったり、または消えているところがあると。地域の人たちの散歩時など危険を感じることもあると聞く。県などに要望はできないかということですが、これも場所を申し上げますと、小川の公民館からセーフティーランド、橋のところ辺まで消えております。こちらは消えておりますけれども、歩道があって、引いてもらうのはいいでしょうけれども、特に歩道がないところ。

それからもう一点は、和田の体育館から宇納間のトンネルの間、これも白線が全く消えております。特に、小川辺も結構、スピードを出して通るという話でありました。危険を感じると。あそこはやはり散歩コースでセーフティーランド歩んでいたりこうしたりするということでありましたので、これは町の管理でありませんが、日向土木事務所なりを通じて国に要望していただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

**【町長 田中 秀俊】**

議長。

**【議長 那須 富重】**

町長。

**【町長 田中 秀俊】**

議員おっしゃるように、国道・県道・町道もそういうところが見受けられると。やはり町民の方からも、町道の白線が消えて安全性にいかがなものかという部分で電話等を頂いておるところであります。

県道・国道は日向土木事務所のほうにしっかりとお願いしていきたいというふうに思っております。

県単のヒアリングのときやらに図面に落として、ここ辺の白線が消えてますのでお願いしますということで、建設課のほうは毎年、要望してるということで、土木のほうはやはり優先順位といいますかそういうものを決めてやってるということでありますが、早く現場に来ていただいて、そして議員さんと一緒に陳情等の折に、ここ辺もお願いしますねということで要望するとまた違うかなあというふうに思っておるところであります。

やはり町民の声を聞きながら、町道もしかりなんですけど、安全性というか交通安全に非常に寄与するところがありますので、中央線そして路側のほうの線もしっかりとした安全対策の中で交通安全遵守の中で事故が起こらないように措置をしていき、また、土木のほうには要望していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【4番 川村 嘉彦議員】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦議員】

県のほうに要望して対応していただくというふうに考えております。

中央線は案外、消えてないんですね。側面のほうが両方消えて分からないところがあります

特に、今、私が言ったところは、地域の方が散歩したりあちこちする場所だというふうに伺っておりますので、優先順位としてはまだいろいろたくさんあるでしょうけれども、できるだけ早くそういった地域の人々の散歩道に対応していただければと思います。要望していただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

土木のほうは、全体的な優先順位があるんですが、うちの要望としては、やはり美郷町の優先順位ということで要望してまいりたいと思っております。

やはり白線が引かれると、安心感ができるというか、はっきり見えるから自分の運転する居場所がはっきりするというところで、安全性に非常につながるということを考えれば、しっかりとした要望活動、そして町道については優先順位の中でそういう区画線を引いていくという努力をしてまいりたいと思います。

以上です。

【4番 川村 嘉彦議員】

議長。

【議長 那須 富重】

4番、川村 嘉彦議員。

【4番 川村 嘉彦議員】

これで終わりたいと思いますが、今、2件申し上げましたけれども、3路線申し上げました。まだほかにもあるかと思っておりますけれども、先ほど、町長のほうから答弁がありましたとおり戸数は少なくても生活の拠点でありますから、その道路については、対処方よろしく願いいたします。

また、県のほうにも要望していただいて、よろしく対応のほどお願いいたします。  
私の一般質問は終わりたいと思います。  
以上です。

**【議長 那須 富重】**

これで、4番 川村 嘉彦議員の質問を終わります。

**【議長 那須 富重】**

以上で、本日の日程は全部、終了しました。  
本日は、これにて散会いたします。

**【事務局長 小田 広美】**

「一同・起立・礼」  
お疲れさまでした。

(散会：午後 1時13分)